
WHY DO WE DREAM DREAMS SUCH AS ?

Φ ~ ふぁい ~

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

W H Y D O W E D R E A M D R E A M S S U C H A
S ?

【Nコード】

N 4 8 1 8 0

【作者名】

φゝふあいゝ

【あらすじ】

日記です。夢日記ってやつです

—

夢日記。

—

私は北海道の国道を走る親の車の中。

とある街の中から旭川へ向かっていたんだと思う。

父親が車を運転する。外は、街灯がぼやける位の大雨だったけど、それでも夜空は、街明かりに照らされて明るかった。

二人は何も話さなかった。車のエンジンの音だけが響いていた。

やがて辿りついたのは、螺旋状の道をした峠。車は所々トンネルを抜けながら登っていく。

車を降りると、辺りはもうすっかり夜。でも、峠の頂上から、山の裾野に沿って続く、その道は、街灯のようなオレンジに照らされていた。

僕は隣にいた女と一緒にその道を歩いた。下を見下ろすと、通ってきた道が見える…。

「高い…」素直に僕はそう思った。

やがて、友達は背後から僕を追い越して行こうとした。

「急いだほうがいい」すれ違いざまに彼はそう言った。

でも僕は女と歩いた。

やがて、道はトンネルへと続く。僕はこの先に何か大切な、懐かしい場所があるような記憶を思いおこしながら、先へ沈む。

長い長いトンネルの先は、時代遅れの駅だった。

街はなく、先程あったはずの街灯すらなく、ましてや車などいるはずもなく、ただ古ぼけた単線の始発駅だけがあった。

ホームには電車が止まっていたが、間もなく発車すると言われた。行き先は、たぶんいつか帰る所。でも行き先はまだ暗闇のような

気がするのだった。

そのとき、僕は母親のような人に言われた。

「この電車は確かに珍しいけど、今日はやめときなさい。それより、あなたはこっち」

彼女は今来た道からホームを見て左側を指差した。そこには先程より作りが立派な、ちょうど高速道路のそれのような大きなトンネルがあった。

ただし、中は真っ暗だった。

僕はこのトンネルがさっきのよりもずっと長いことにきづいていた。

でも、そこに入るのはとても楽しみに思えた。

だから僕は、そのトンネルへ向けて歩みをはじめた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4818o/>

WHY DO WE DREAM DREAMS SUCH AS ?

2010年10月24日04時25分発行